

金沢学院大学大学院

2025 (令和 7) 年度 入学者選抜試験問題 (I 期)

2024 年 9 月 7 日 (土) 実施

人文学研究科心理学専攻
修士課程

小論文

注意事項

- 問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
- 解答は、解答用紙（提出用）に書きなさい。
- 問題冊子・解答用紙（提出用）に受験番号・氏名を記入しなさい。
- 試験終了後、問題冊子・解答用紙（提出用）・下書き用紙を回収します。

受験番号	
氏名	

次の問1～問4について、すべてに解答しなさい。

問1

以下の文章を読み、後の問い①～③に解答しなさい。

スクールカウンセラーであるAは4月にある高校に着任した。7月に入り、3年生の担任をしている教諭から次のような相談を受けた。

「ある男子生徒の④進路指導を行っているのですが、親が医者なので、医者になる、それ以外の進路を考えていない、と言われてしまいました。成績的にも医学部進学は厳しく、特に理数系科目の授業にはついていけず、数学の時は体調不良を訴え、保健室に行くこともあります。歴史など社会科の科目のほうで成績も良く、本人も楽しそうです。面談の時に、他の学部も考えてみたらどうかと本人に聞いたのですが、医学部に行くとしか言わなくて……。これから、どう指導したらよいかわからず、困っています。」

- ①下線部④に関連して、「アイデンティティ」について、エリクソンの心理社会的発達理論に基づき、150字程度で説明しなさい。
- ②この事例に対して、スクールカウンセラーとしてコンサルテーションを行う場合、誰にどのような対応を行うかを説明しなさい。
- ③この事例に対して、スクールカウンセラーとしてカウンセリングを行う場合、誰にどのような対応を行うかを説明しなさい。

問2

援助者が支援を必要とする人がいる場に出向いていく「アウトリーチ」について、その意義を、援助者が面接室で要支援者の来談を待つ心理学的支援と比較しながら300字程度で説明しなさい。解答には以下の用語を全て用い（順番は変えてよい）、語には下線を付すこと。

エンパワメント、コミュニティ、コラボレーション

問3

いわゆる「アルバート坊やの研究」(Watson & Rayner, 1920)について、後の問い①、②に解答しなさい。なお、解答の際「アルバートが、本当は誰であったか」に関して言及する必要はない。また、この論文において、アルバートは「生まれたときから健康であり、これまで病院に運ばれた子の中で最も成長が速やかで、生後9ヶ月で体重21ポンド(約9.5キログラム)であった」と述べられている。

- ①この研究において行われた条件づけの手順を150字程度で説明しなさい。
- ②現代の心理学における倫理的規範に照らして、この研究が持つ倫理的問題点を150字程度で指摘しなさい。

問 4

以下に示すクロス集計表は、ある精神疾患に罹患しているかどうかを調べるために作成された簡易的な検査による判定結果と、医師の診察による正式な診断結果との組み合わせについて集計したものである。この表をもとに、後の問い①～④に解答しなさい。

		簡易的な検査による判定結果		計
		罹患していない	罹患している	
正式な診断結果	罹患していない	95	5	100
	罹患している	5	3	8
計		100	8	108

- ①この検査による判定結果が「罹患していない」であった時、判定が誤診となる確率は何%であるかを求めなさい。
- ②この検査による判定結果が「罹患している」であった時、判定が誤診となる確率は何%であるかを求めなさい。
- ③この検査が誤った判定を下す確率は何%であるかを求めなさい。回答は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位の値を示すこと。
- ④ここまでの設問への回答を踏まえたうえで、この検査を使用する際の注意点を100字程度で述べなさい。

年度	2024年度実施
研究科	人文学研究科
課程	修士課程
専攻・コース等	心理学専攻
試験科目	I期小論文
実施日(試験日)	2024年9月7日

解答又は解答例及び出題意図

○出題意図

人文学研究科心理学専攻修士課程のアドミッションポリシーのうち、「1. 心理学及びその関連領域に関する専門的知識と真摯な探究心」に関して、入学者が資質を有していることを確認することを目的としている。加えて、公認心理師養成において必要な、臨床心理学に限らず、幅広い分野について理解していることが求められるため、心理学における用語や理論、心理統計に関して説明、論述する形式としている。

○解答または解答例

問1-① エリクソンの心理社会的発達理論における青年期の心理社会的危機。自我同一性や同一性とも呼ばれる。「自分は何者か」「自分は社会とどう関わるのか」など、自分についての総合的見解であり、文化的、社会的な文脈の中で個人の存在を規定するもの。※斉一性と連続性について書かれている場合は加点

問1-②相談をした教諭に対して、男子生徒の進路指導の問題について、心理職として青年期の発達課題も踏まえてコメント、アドバイスなどを行う。

問1-③相談をした教諭を通じて、男子生徒に対し、学校における心理相談について伝えてもらい、相談を促し、男子生徒が同意した場合にカウンセリングを行う。必要があれば、男子生徒の保護者に対してもカウンセリングを行う。

問2 従来の心理学的支援では、不適応や高リスクでも来談しない人の援助はできず、面接室に本人が連れて来られるまでに状態が悪化している場合もある。一方アウトリーチは、援助者が要支援者の生活する場に出向き、雑談や御用ききの中で援助の案内もできるため、支援を受ける抵抗感を減らせる可能性がある。コミュニティ内の資源の情報も収集でき、周囲へのききとりによるアセスメントもできる。要支援者の周囲とのコラボレーションによって、本人への適切な対応を考え、状態変化に早く気づけるという利点も考えられる。また、早期に、かつ、コミュニティ内において問題への対処が可能だと要支援者が理解することで、自身が本来持っている力に気づき、問題解決に取り組んでいくエンパワメントにもつながる。

問3-① 白ネズミをアルバートの前に置き、アルバートが関心を示したときに大きな金属音を立てて驚かせ、驚いたアルバートは泣き出す。これを反復することにより、白ネズミを条件刺激とした恐怖反応が条件づけられた。また、白ネズミとよく似た特徴を持つ白ウサギやサンタクロースの白いひげなども怖がる刺激般化が生じた。

問3-② 条件づけられた恐怖を解除する手続きが行われていないため、アルバートが生涯不必要な恐怖を抱えてしまった可能性がある。また、アルバートの母親に対するインフォームド・コンセントが十分であったかも判明していない。アルバート1人のみの結果から議論が一般化されており、再現可能性にも問題がある。

問4-① 5%

問4-② 62.5%

問4-③ 9.3%

問4-④ この検査の全体的な誤診率は9.3%であるが、罹患しているという判定が出た場合の誤診率が62.5%と非常に高い。このため罹患しているという判定が出た場合は、慎重に判断を行うよう心がけることが望ましい。